

1 スクール・ミッション

「愛情」「良識」「勤勉」を教育目標に掲げ、地域と連携して生徒の能力を伸ばしながら、社会で必要とされる力を着実に身に付ける教育活動を推進します。伝統を尊重しながらも未来を創造するために果敢に挑戦する人材を育成するとともに、地域の期待に応え地域と共に地域に貢献する人材を育成します。

2 目指す学校像

(1) 教育目標

「愛情」 つねに温かな心を持ち、人間関係を大切に人を育てる。

「良識」 視野の広い知識に基づく、適切な判断力をもつ人を育てる。

「勤勉」 心身ともに健康で、勤労に喜びをもつ人を育てる。

(2) 目指す学校

- ◇地域貢献 地域の期待に応え地域と連携しながら地域に貢献する人材を育成する学校
- ◇能力伸長 生徒が生き生きと活動するとともに生徒の能力を伸ばすことができる学校
- ◇人格形成 人権を尊重し全ての教育活動を通じ知・徳・体の調和の取れた人間を育成する学校
- ◇未来創造 伝統を尊重しながらも未来を創造するために果敢に挑戦する人材を育成する学校

3 中期的目標とその達成に向けた方策

(1) 生徒及び保護者が満足できる学校づくりを推進

- ①令和5年3月に策定された「都立高校の魅力向上に向けた実行プログラム」に基づき、「地域探究推進校」として地域との連携を推進し学びの充実を図る。併せて、普通科高校の弾力化について、地域社会に関する学科の開化に向け、地域学科（仮称）を組み入れた学科改編について取り組む。
- ②丁寧な指導に基づいた教育活動を展開し、個別の支援を充実させ中途退学者の減少を図る。
- ③分かる授業を展開して生徒の基礎学力の定着を図る。
- ④教科横断的な指導への転換を図りながら4年間の探究活動の計画を立て実践する。
- ⑤生徒による授業評価の活用と教科主任会の活性化により教科指導力の向上を推進する。
- ⑥生徒の興味・関心を高める体験的学習の実践により生徒の主体的な学習活動の充実を図る。
- ⑦総合的な探究の時間での組織的・計画的な取組を通じて教科横断的な教育活動を推進する。
- ⑧ICT機器を活用して教育効果の向上を図る。
- ⑨自立支援チーム継続派遣校として、生徒相談兼特別支援教育委員会を中心に各学年・教科及びSCやYSWが連携した生徒指導を推進する。
- ⑩外部講師の活用、インターンシップ等の地域連携を通じてキャリア教育の充実を図る。
- ⑪スキルアップ推進校として、社会人として必要な資質・能力を身に付けるため、各種検定の資格取得を目指し進路実現を図る。

(2) 安全・安心な学校づくり

- ①落ち着いた学校生活ができるよう、礼儀と規律を尊重する態度を育成し、心身の健康増進を図るとともに、コミュニケーション力を育成する。
- ②生活指導指針に基づく日常的・継続的な指導により、規範意識の向上と基本的生活習慣の確立を図る。
- ③行事や、生徒会活動、委員会活動、部活動等において生徒が主体的に活動するなど教育活動のより一層活性化を推進する。
- ④体力テスト結果の分析・活用や安全指導など心身の健康増進に向けた組織的・計画的な取組を推進する。

(3) 災害の発生に備えた防災教育の推進及び感染症への対応

①外部専門機関等と連携し、災害時に備えて防災教育を引き続き推進する。

(4) 組織的な学校経営

①創立以来の伝統を受け継ぎながら、グランドデザインに基づき教育活動の整理と充実を図る。

②全員体制による広報活動と組織的・計画的な募集対策の工夫及び充実を図る。

③各種委員会等の活性化の推進と情報の共有化を図る。

④各分掌・学年・教科の一層の連携強化を図る。

4 今年度の取組目標と方策

(1) 学習指導

①探究活動の充実

地域と連携した活動を取り入れるなど、総合的な探究の時間の4年間の全体計画を立て、探究力や社会力を身に付けられる取組を推進する。

②基礎学力の定着

生徒の実態を踏まえ、分かる授業を展開して基礎学力の定着を図るとともに、生徒の学習意欲を高める。

③授業力の向上

令和4年度から導入する観点別学習状況の評価の趣旨を踏まえ、授業のねらいを明確にし、振り返る場面を設定して評価を行うなど、観点別学習状況の評価を確実に実施し、授業力の向上を図る。

ア 全教員がチャイムで授業を開始するなど授業規律を確立し、生徒が集中して学びに向かう環境を整える。

イ 生徒による授業評価を活用した情報共有と教科主任会主体の相互授業参観により、授業力の向上を図る。

ウ 実験・実習の実施など生徒の興味・関心を高める体験的学習の実践により生徒の主体的な学習活動の充実を図る。

エ アクティブラーニングを取り入れた授業実践により、生徒の学びに向かう力、コミュニケーション力や表現力の向上を図る。

(2) 生活指導

④落ち着いた学校生活

毎日の昇降口における挨拶指導を通じて、生徒の心身の健康を向上させるとともに、学習をはじめ学校の教育活動全体に対する意欲の向上も推進し、生徒が安心して学校生活を送れる環境を作る。

ア 日常的な身だしなみ指導、遅刻指導、挨拶指導等を全教職員により取り組むことで、生徒の基本的な生活習慣を確立する。

イ 避難訓練をはじめとした防災教育やセーフティ教室等の安全教育を充実させ、安全・安心な学校づくりを引き続き行う。

ウ 教職員の共通理解を図った上で、保護者との連携による欠席・遅刻・早退等の指導などきめ細かな指導を進め安定した学校を維持する。

エ 自殺防止に向けてSCやYSWと情報共有を行うとともに、SOSの出し方に関する指導を実践する。

(3) 進路指導

ア 進路希望に応じたキャリア教育の推進と、地域との連携等により、生徒の進路への意識を高める。

イ 進路希望に応じた進路ガイダンスの実施やインターンシップによる進路指導の充実を図る。

ウ グループエンカウンターの実施によりソーシャルスキルの向上を図り、社会人となる意識を向上させる。

エ 自立支援チームを中心に高校生の社会的自立を目指す進路支援事業を活用し、進路意識の向上を図る。

(4) 特別活動

⑤地域と協働した取組

地域に開かれた学校づくりとして、「ヨルイチ」などの地域行事や地域清掃活動への参加、和太鼓での交流及び天文台を活用した観望会など、自治体、小・中学校、関係機関等と協働した取組を行う。

ア 文化祭等の学校行事や委員会活動において、生徒の自主的、主体的な活動の充実を図る。

イ 学校行事や地域と協働した取組等により、生徒の達成感や自己有用感を醸成する。

ウ 地域と協働した取組により、地域の方に本校の活動を知ってもらえる機会を増やす。

エ 外部専門機関と連携して、社会人として必要な意識の向上を図るなど主権者教育を推進する。

オ 総合的な探究の時間、教科指導、行事等における図書館の活用と読書習慣の確立を推進する。

(5) 健康づくり

ア 部活動への積極的な参加を促進し、自主的、自発的な活動を通して、豊かな人間性や協調性、リーダーシップなどを醸成する。

イ 「アクティブプラン to 2020」に基づく体力テストの活用をはじめ保健体育の授業による体力向上を図る。

ウ 自校調理の給食の喫食率の向上を目指すとともに、食育の実施による健康作りを推進する。

エ S CやY S Wを活用、特別支援委員会を中心とした個別指導の充実により、生徒の心身の健康を増進する。

オ 発達障害に関する知識を全教員で共有し、個別の案件に対して適切かつ丁寧に対応する。

(6) 学校運営

⑥広報活動

ア 民間事業者を活用した学校説明会等のPR動画を作成し、特色ある教育課程を踏まえた学校案内及び学校紹介動画、見やすいホームページの作成と定期的な更新等、PR方法を工夫することにより広報活動を充実させる。

イ 学校の特色等を資料としてまとめ、全員体制による中学校訪問を行い、中学校の理解を深める。

ウ 生徒の活動が見える、学校見学会や学校説明会など、積極的な広報活動を確実に進める。

⑦O J Tや研修による人材育成

授業力の向上、探究活動の指導や観点別学習状況の評価などについて理解を深め、実践を通じて指導方法などが定着するよう、O J Tや校内研修の充実を図る。

⑧ライフ・ワーク・バランスの推進

ライフ・ワーク・バランスの推進に向けて、各分掌、各学年及び各教科で校内業務の整理と効率化を図る。

ア 全教職員が学校改革への意識を高め共有することで、改革を推進する。

イ きめ細かい指導、生徒の主体的な活動を推進し、生徒及び保護者等の満足度の高い学校づくりに取り組む。

ウ 管理運営規程に基づく組織的な学校運営を行い、企画調整会議を中心とした組織的学校経営を推進し、校務分掌内の協働体制を一層充実させ、校務の円滑な運営と諸課題の解決を図っていく。

エ 学校いじめ防止基本方針に基づき、年3回の調査を中心に、いじめの未然防止、早期発見、早期対応に取り組む。全員体制による定期的な校内外の巡回により、いじめなどの問題行動の未然防止を推進する。

オ 体罰防止に関する生徒理解を推進するとともに、計画的な教員研修により体罰根絶に向けて全校的に取り組む。

- カ サービス事故未然防止について、クリーンデスクや個人情報の管理、体罰や生徒への性的暴力等についてコンプライアンス研修等を実施し、更なる徹底を図る。
- キ 経営企画室の学校運営への積極的な参加を推進するとともに、学校経営計画及び予算編成指針に基づき、計画的な予算執行、施設・備品管理、学事、環境整備などについて、円滑かつ適切な進行管理を図る。
- ク 全日制課程と定時制課程の連携を深め、双方の教育活動一層理解することで、学校の安定化及び活性化を推進する。

5 数値目標

目 標	令和2年度	令和3年度	令和4年度
生徒の授業満足度 95%以上	89.0%	97.6%	94.3%
進路決定率 90%以上	100%	70.0%	80.0%
遅刻回数 1人月平均5回以下	1.59回	2.39回	2.18回
不登校・中途退学者 2名以内	0名	5名	2名
生徒の地域行事等への参加に対する地域の理解 65%	—	41.9%	62.1%
本校地域活動に対する地域の認識 50%	6.4%	11.6%	34.5%
地域の本校生活指導への理解 70%	58.2%	58.1%	65.5%
自立支援チーム派遣事業への理解 100%	—	—	—